

令和5年度 第2回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日 時 令和5年12月6日（水） 午後3時00分から4時37分
場 所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 令和5年度 学校経営方針実現に向けた取組の報告
- 4 令和5年度 学校経営診断アンケートの依頼
- 5 その他
- 6 閉会

○会長 では、定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第2回「学校経営評議会」を開催させていただきます。

本日は、教育委員会の大森委員から欠席の御連絡をいただいております。

最初にちょっと触れさせていただきたいのですが、新型コロナウイルスも第5類への移行となって大分時がたちまして、多くの感染防止対策とか制約の中で3年以上の期間御苦労されてきた千代田区教育委員会あるいは本校の教職員の方々に、この場をもって私のほうも今までの御努力に感謝を申し上げたいと思います。

疲労感は拭えない中ではあると思いますが、毎年生徒は新しく入学し、卒業していくという待ったなしの状況かと思います。そういう中で、主役の生徒のためにも、伝統を継承しつつ、あるべく姿に近づけていくというミッションを踏まえ、前向きな論議あるいは意見交換をしてまいりたいと思います。

スムーズな議事進行になりますように皆様をお願いして、議事の進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、まず九段中等教育学校を代表いたしまして、校長先生から御挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

○校長 皆さん、こんにちは。

本日は、御多用のところ、ありがとうございます。

今、会長からもお話がありましたけれども、5月を過ぎたところでコロナが5類への移行ということで、学校は通常どおり、感染拡大防止に努めているところではありますけれども、通常の宿泊行事も実施できているということです。海外の語学研修も4年ぶりとなりますかね。この8月から11月までアメリカ、オーストラリア、シンガポールと無事に行ってまいりました。生徒も現地に行くと視野が全く違ってくるということもありますので、非常に教育活動が戻ってきたなと思っているところです。これからまたマラソン大会というかクロスカントリーレースがありますけれども、そちらでも生徒にまたしっか

りと自分の持てる力を発揮してもらいたいなと思っております。

また、学校のことを言いますと、生成AIのパイロット校に文部科学省から指定を受けてまして、東京の公立高校では唯一です。今朝も教科調査官、それから、文部科学省から6名ほど、今日から生成AIの授業も開始ということになりましたので、見に来ていただいているというところですよ。

この生成AIについては、教育としての利活用だけではなくて、校務支援での利活用ということで、例えば私の仕事でいうと、教員から学年便りなり何か便りの確認があり、それをいつも赤で直すわけですよ。そういったものを生成AIに問いかけることによって、それで私に出すことなくいい文章が多分出来上がってくる。ただ、それまでには過程が必要なのです。生成AIもぱっと聞いてすっと出てくるというものではなくて、今度はそれをお願いしている側の質問力が問われるとか、質問がちゃんとなっていないとちゃんと出てこない。そういうことも非常に理解しているところで、逆に言うと、そういったことで対話力を培っていけば、生徒の学習面であるとか、あるいはコミュニケーション面ですかね。そういったところでも非常に力がついてくるのかなと思っている次第です。

また、今年度取り組んでいます新たな教育開発委員会では、アントレプレナーシップとSTEAM教育とグローバル教育を3つの柱として探究を行っていくというような新たなプログラムができあがり、外部委員の先生方からも非常にいい取組だということで、来年度からスタートしていくわけですが、それにまた新たなフェーズに入ってくるというところかと思います。

皆様、また御指導いただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

それでは、配付資料の確認について事務局からお願いいたします。

○経営企画室長 よろしく申し上げます。

資料についてですが、まず、ペラ1枚の次第と、資料1と書いてあります、左の上がホチキスどめの「令和5年度 学校経営方針実現に向けた取組（中間報告）」で各分掌等から出ているものがあります。それと、委員の方々には学校経営診断アンケートをお渡ししております。

不足等はございますでしょうか。

では、以上です。

○会長 ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に従い、進めてまいります。

まず、令和5年度の学校経営方針実現に向けた取組について御説明をお願いいたします。

各副校長よろしく申し上げます。

○前期副校長 副校長で前期課程を担当しております。

私からは、担当します分掌、知の創造部、豊かな心の育成部、さらには、学年のほうは、前期課程ですので1、2、3学年の報告をさせていただきます。

では、資料1、ページをめくっていただきまして4ページ、知の創造部から御報告いたします。

知の創造部は、以前教務部という名前と呼ばれていた分掌で、教育課程の管理等を分掌する部署でございます。

本校の学校経営方針における主な取組と目標についての今年度の取組、そして、達成に向けての課題を簡単に御説明いたします。

まず、項目の1に関しまして、「授業を学力伸長の第一の場ととらえ、生徒と教員が協働して質の高い授業を創造する」ということに関しましては、以前からそうなのですが、本校は早くからICTの活用を進めてまいりました。コロナ禍においてもオンライン等を活用しまして、授業ですとかあるいは課題提出等で活用してまいった次第です。

今後に向けましては、まず双方向的な学びをより一層深めるということです。単に器具としてICTを使うというだけではなくて、有効な活用として双方向の学びを深めるというのを現状教科のほうに投げかけているところになります。

また、今後、万が一ですけれども、また自宅待機等でオンライン学習が必要になるなどという事態が生じた場合にも備えまして、授業をオンラインで配信するというような体制も引き続き取っていかれたらと考えております。

それに当たっての課題としましては、具体的な機材としてのパソコンの整備です。これはどういうことかと申しますと、現状でもオンライン、パソコンを活用した授業を各先生方はやっているところではあるのですが、仮にそれを配信するとなると、先生が教卓で使うパソコン以外にもう一台配信用のパソコンが必要になります。この整理が現状まだ不十分だということなので、これを今後課題として予算措置等をお願いしていくという方向で考えております。

2番目です。「6年間の一貫した教育カリキュラムを進めるにあたって、『知の創造』へのつながりを常に意図する」ということです。これはまさに本校の教育活動の中心になるところではあります。また、それを担うのが各先生方ということになります。

本校は、区のエデュケーション委員会、都のエデュケーション委員会と連携しまして、いろいろと御指導いただいたところです。次年度の教育課程の見直しを現在行ったところです。これらを各授業に落とし込むに当たりましては、まず、学校全体としての教科主任会を生徒の学力向上、教員の指導力向上の戦略的な会議として位置づけて、定期的を開催しております。ほぼ1か月に1回のペースで毎年開催して、今年度も順調に行っているところです。

また、次の3番とも関係してくるところなので、続けて関連して説明いたします。3番の「教科マネジメントの充実を図る」というところです。今御説明した教科主任会の下で各教科の教科会というのがあるわけです。これも定期的に各教科で実施しており、それが同じ教科での一致した見解として授業を行うというような指導につながっているところがあります。

また、個々の教員の資質向上という意味では、その達成に向けての課題の欄にあります。

すとおり、先進校視察、予備校における授業、外部主催の研修会といったものに積極的に参加してもらっております。都の研修センターもかなり充実した研修を用意しておりますし、また、他校では指導教諭による模範授業を中心とした授業公開が活発に行われておりますので、こういったところにぜひ参加するようにと指導しているところです。そういったところを本校に戻って還元してもらっているところです。また、教科によっては教科内の校内研修会などというものも開催する。そういった積極的な教科もあります。

4 番目、これも今の各先生方の教科指導力を高めるという研修に加えまして、「教員研修を推進し、授業力向上に資する」ということで、今のお話にも含まれることでもありますけれども、それ以外にも、本校に外部講師を招いて校内研修会を実施するといった機会もこの知の創造部を主として行ったところです。先日も授業力向上の研修を知の創造部主催で行ったところ、その後の授業に活用しましたというような意見も聞かれたところです。

そして、5 番目です。「各施設、ICT機器、教材、教具等の利用環境を整備し、指導方法・業務の工夫、改善を図る」というところです。これも最初にお話ししたとおり、ICTの活用に関しては現在行っているところではありますが、それを行うに当たって必要となる機材がきちんと更新ないしは管理されるということが今後の課題になっておりますので、引き続き区のほうにも御相談しながらそういったところの整備をお願いしていくことになろうかなと考えております。

また、来年度は本校の校務・学籍用システムのリプレイス等も控えておりますので、日々こうやってデジタルというのは更新の作業が必要になってきますので、そういった時宜に即した対応もしていきたいと考えております。

続きまして、6 ページを御覧ください。

豊かな心育成部です。こちらは今までに生活指導部と言っていたところです。学校経営の柱になる「豊かな心を育てる」というところからこの名前になりました。

1 番目、「社会で自己実現できるリーダー性を育成する」。こちらは主に生徒自治会を中心として、各行事あるいは委員会活動というのを主体的に実施させております。定期的に専門・代表委員会という委員会を開催し、担当の教員はついていますが、基本的には後期課程の生徒を中心に、リーダー的な生徒が中心となって運営を実施しております。特に体育祭、九段祭の二大行事に関しましては、本当に生徒たちが主体的に、委員長の下に各委員が主体的に動いてくれております。

2 番目、「望ましい人間関係の中で、自主・自律の精神を養う」というところです。こちらは全生徒に対して自己管理能力の育成、これは各学年、各担任が日々言い続けているところです。また、生活指導担当としてのこの豊かな心育成部も全校集会、学年集会等で主任などからのお話を通じて指導をしているところです。

3 番目、「不安のない学校生活の実現と不登校等の学校不適応生徒の課題解決を図る」ということに関してです。拡大の部会と申しますのは、この豊かな心育成部の部会に各学年の生活指導担当の教員が加わり、また、その他、特別支援教室専門員、スクールソーシ

ャルワーカー、副校長支援員等がさらに加わって、より大きな形で情報共有をする場というものを毎週行っております。こうした教員同士の情報交換というのは、まさにこういった生徒指導には欠かせない、必要なところでありますので、こういった毎週の情報共有で各学年が自分の学年以外の生徒に対しても指導の共通理解を図る。そういったところが図られているところです。

また、生徒指導的な、問題行動という意味ではなく、特別支援教育に関する情報共有の会もまたそれとは別に行われており、今年度に関しましては、既にケース会議という形で個別に配慮が必要な生徒さんに対する配慮事項の情報共有といった場も設けているところです。

4 番目、「部活動の在り方に関する方針に基づき、学習活動と両立できる環境整備を図る」。部活動指導は、コロナ禍と比べまして、5 類移行以降はかなり元どおりに戻って大会等も開催されております。元どおりになったということで、その前の取組等を生かしまして、各部活動で申し込み等が確実に出来るよう、豊かな心育成部のほうでも支援をしているところです。

続きまして、学年の説明に行きたいと思います。8 ページを御覧ください。

1 学年です。今年度入学をした生徒たちです。

学習指導に関しましては、1 年生ですので、まずは基礎基本を充実させるということに加えて、基本的な学習に向かう姿勢、この指導が中心になっているところです。放課後の指導等も活用しまして、そういったところを育成しているところです。

生活指導に関しましても、同じく基本的な所作、そういったものをまずは身につけてもらうということで、時間を守らせるですとか持ち物をきちんと管理するといったところを担当のほうから指導してもらっているところです。

3 番の進路指導に関しましては、6 年という長いスパンの中で、本当にまだ入ったばかりで先が見えないところもあるかと思いますけれども、やはりいろいろなことを考えていく基本姿勢ですとか、あるいは調べ物をするに当たっても基礎基本的な取り組む形といったものを学ばせているところです。

それと、4 番目のその他に関しましても、1 年生ですので、同じく基本を押さえ、また、意欲を持って取り組むように導いているところであります。

続きまして、その次の 9 ページ、第 2 学年です。第 2 学年は、1 年間過ごしてきて大体本校の流れは分かっているところです。2 学年は先週もちょうど British Hills、英語合宿に行って帰ってきたばかりですけれども、本校の九段自立プランの中でいよいよだんだんと次につながる学習が入ってきているところであります。

1 番の学習指導の授業に関しましても、自己管理という意味で、手帳を活用した日程管理等も力を注いでいるところであります。

2 番目の生活指導も、挨拶ですとか、あるいは自分できちんとやろうというような高い意識を持った生徒が徐々に目立つようになってきております。そういった生徒を軸に全体

に広げていけるようにというところで、学年では指導しているところです。また、不登校ぎみの生徒さんも増えてきておりますので、そういったケースにも個々に対応できるように担任のほうから細やかな指導をするようにしております。

3 番目の進路指導・キャリア教育に関しましても、2 学年は7 月に職場体験という行事がありまして、郊外で2 日間、千代田区を中心とした企業あるいは関連機関で働くということを、できたところでは、探究学習のはしりとして、これからそれを基に次へつなげる指導をしております。

続きまして10 ページ、3 学年です。前期課程の最終学年、義務教育の最終学年ということで、いよいよ後期課程、一般の学校で言いますと高校生になる準備期間ということになります。

学習面でも、基礎学力を本当に定着させて後期課程に臨むというところから、朝学習ですとか放課後スタディといったところに力を注いで、基本的な学力の確実な定着を図っているところです。また、上位者に関しましては、かなり勉強も頑張ってくれております。英語劇ですとか、特にそういった特別活動に関しましてかなり頑張っている学年でもあります。せんだって、11 月4 日から11 日までの約1 週間ちょっとの間、オーストラリアに海外研修旅行に行っていました。行事としては4 年ぶりに開催がなかったものです。英語の学習をこういったことを通じてさらに意識づけが図れたということで、発展的に学習をつなげていく予定であります。

生活指導に関しましても、後期課程になると、先ほどの行事等で中心的な役割を担う学年になりますので、そういったところからも、リーダー的な位置づけになるような役割をどんどん担わせるように、最上級生としての自覚を持たせるように担任のほうでは指導をしているところです。

進路指導に関しましても、自主的な取組といったところを重視して、教員が教え込むのではなくて、主体的に自主的に調べ物をするようにと導いているところであります。

以上、私からは2 つの分掌と3 つの学年について御報告申し上げました。

○後期副校長　こんにちは。後期課程を担当しております。

私のほうでは、CNV 室、未来貢献部、SMP 部、それから、後期課程生に関して説明させていただきます。

まず1 ページです。CNV 室です。CNV 室では、新たな最先端教育プログラムの開発、それから、SSH、スーパーサイエンスハイスクール申請に向けて、今取り組んでいるというところです。

先日、11 月24 日には第3 回の新たな最先端教育プログラム開発検討委員会を開催しまして、委員の方から様々な意見をいただきました。それを反映させた新プログラム案に関しまして、全教員に理念を説明し、来年度、いよいよそのプログラムにのっとった学習ができるように準備を進めております。

また、SSH 申請に向けては、自由にテーマを設定できるように、現在も総合的な探究の

時間では生徒が様々な分野で卒論を作成しているのですが、それを継承しながらSSHに関しても申請を進めていくところです。

科学技術人材育成へつながる取組もしております。大学院生による出前授業ですとか、学外で行うセミナーに参加ですとか、そういった取組も行っております。

また、先日、11月12日ですが、Tokyoサイエンスフェアの科学の甲子園東京大会に有志5年生が6名参加しまして、46校中で、物理分野で14位、化学で15位、生物で32位、地学で21位、数学で10位、情報で17位という結果でした。実技競技もありまして、これは49校中8位という結果だったと聞いております。

続きまして2ページ目、未来貢献部です。

未来貢献部では、進路に関する学習、キャリアに結びつける学習に取り組んでおります。

後期課程生に関しましては、進路説明会を実施し、進路に向けた取組、方向性を生徒に示し、日々の学習の動機づけに結びつけられるように取り組んでおります。

また、海外大学の進学を目指す生徒が増加しております。それに伴い、11月1日には海外大学進学セミナーを実施し、海外大学を検討している生徒、それから、海外進学指導の流れを知りたい教員が参加して、参考になるお話等に耳を傾け、今後に生かしていくところであります。

また、11月29日には、後期課程なのですけれども、キャリア講演会を行いました。今年度に関しましては、講師に外務省の職員の方をお迎えし、外務省の仕事や役割、外交政策、国際情勢等について、御自身の経験に基づいた講演をしていただきました。

また、ちょっと遡って夏なのですけれども、夏には海外での研修も行いました。I.F.U大学連合のバンガー大学研修に1年生が8名、2年生が4名、3年生が4名、5年生が5名、それぞれ期間は2回に分かれて行ったのですが、7月22日から8月4日の期間、それから、8月3日から8月16日の期間というところで研修に参加しました。研修では、ホームステイを行いながらバンカー大学、ダブリン大学等で授業を受けるといった取組を行ってきました。

また、UCLA海外大学派遣研修というのも行いました。8月7日から8月15日で、4年生が7名、5年生が10名参加してまいりました。カリフォルニア大学ロサンゼルス校の寮に宿泊し、UCLAの学生と交流しながら授業を受けるといったことに取り組んでまいりました。

今週の土曜日、12月9日にはバンガー大学研修、UCLAの研修をした生徒が報告会を行う予定になっております。

続きまして7ページ、SMP部です。

SMP部では、本校の広報活動に主に取り組んでまいりました。校内では3回学校説明会を開催しました。7月8日には700名近い児童が、第2回に関しましては330名、第3回に関しましては507名、第3回に関しては願書を配布するといったこと、それから、校内を見学するといったことで説明会を行いました。

また、夏休み期間中、8月20日なのですけれども、小学生を招待し、授業体験ということも行っていました。

また、10月1日には、これは今年度から行った取組なのですけれども、東京都教職員センターで都立中学校等の合同説明会というものに参加してまいりました。中高一貫校と合同で説明会を行い、また、個別相談というものも行っていました。

また、区内での小学生に関しましては、学校パンフレットの配布も積極的にしてまいりました。

令和6年度の出願に関しては、A区は1月17、18日持参で受付を行います。B区に関しましては1月10日から16日まで郵送で行っていきます。2月3日が適性検査、2月9日が合格発表という予定になっております。

続きまして、4年生から説明をしていきたいと思えます。11ページです。

4年生は、後期課程になり、徐々に高校の課程に関して慣れてきたところであります。文系理系に関係なく、全教科をしっかりと取り組ませるように、補習ですとか発展的な学習、自主的に全教科に取り組んでいるところです。

夏には至大荘行事を行いました。1期は7月31日から8月2日まで、2期は8月3日から8月5日までという期間で行いました。コロナ前に行っていた形態とは若干違いますが、充実した活動になったのではないかと思います。

生徒の至大荘を終えての感想なのですけれども、思ったより楽しかった。達成感、やり切ったという気持ちでいっぱいです。きつかったけれども、ハードではなかった。先輩の人が怖かった。自分はこんなに泳いだのだと自慢したい気持ちになった。3日間の共同生活を通じて、仲間たち、助手の方々と絆が深められたと思えます。

それから、楽しかったこと。友達と話しながら過ごしたこと、星空を見られたこと、海で活動、それから、すいか割り、花火、お菓子の購入。そういったことが楽しかったことの思い出になっております。

それから、至大荘行事の目的や意義に関しての感想なのですけれども、強い心を育てられたと思う。それから、全力で物事に取り組むことが何となく分かった気がする。至大至剛の精神を培うことができたというような感想を生徒が持っております。

続きまして、5学年にまいります。12ページからです。

5学年では、次年度、主に選択教科がメインになるために、どんな科目を選択するか、生徒はそれぞれ考え、それから、保護者とも面談を行い、授業がまとまりつつあるところ です。自分の進路に関しても、方向性を今見つけている段階です。

9月に行われました九段祭では、5年生が実行委員として中心に活動し、成功に実施することができました。

また、10月13日から10月17日、3泊5日でシンガポール海外研修旅行に行っていました。研修では、シンガポール大学で現地の大学生と交流、それから、班行動による活動、企業訪問などを行いました。

また、起業家による公演会も実施しました。生徒たちは起業家の方の講演を大変興味深く聞いており、感動したという感想も聞かれました。

続きまして、6年生です。13ページ以降です。

6年生ですが、夏休みに生徒、保護者と面談を行いながら、希望校を決定し、今、受験に本格的に取り組んでいるところです。9月末には無事に大学入学共通テスト出願を終えました。また、学校推薦型選抜、総合型選抜で進路が決まったという生徒もおります。

登校に関しましては30日を切り、1月13日、14日には大学入学共通テスト、それから、3月2日には卒業式を迎えるところです。いよいよ6年間の締めくくり、進路がしっかりと見出せるように応援してまいりたいと思っております。

私からの説明は以上です。

○会長 ありがとうございました。

それでは、ただいま御説明いただいた令和5年度学校経営方針実現に向けた取組につきまして、御質問または御意見等がありましたらお願いいたします。

○委員 CNVのところでも、あるいは知の創造のところでも、先進校の視察というベンチマークとなるような学校を拝見して、それを共有されているということだと思えるのですが、具体的にはどのような学校なのかというのは教えていただけますでしょうか。

○後期副校長 富山の中部高校。

○委員 富山というのは富山県の。

○後期副校長 富山県です。

それから、資料を持ってきていなかったのも、ごめんなさい。神山高専。ごめんなさい。ちゃんと出てこない。

○校長 神山ものづくり高専。

○後期副校長 神山ものづくり高専。すみません。

○委員 それはどちらの学校なのですか。

○校長 徳島県です。徳島県の高専なので、中学校を出てすぐに。

○委員 高専で各地から集めている学校ですか。

○校長 そうです。アントレプレナーというか、起業家志望者を集めるというか、今、1年生しかいないのですが、実質授業料無料。それから、全員宿舎に入っているのですが、ほぼ無料で、100億のお金を集めて、それを元手にお金を循環させているので、みんな無料になっているみたいです。

○委員 企業からの寄附で。

○校長 そうです。

○委員 神山というのはGodの神。

○校長 そうです。Godの神です。

○委員 分かりました。

都内のどこかの進学校とか、そういうわけではない。

○校長 そうですね。基本的には、先ほどの富山の中部についてもスーパーサイエンスハイスクールの実施校なのです。あと、兵庫でも、長田商業と加古川東高校。

加古川東もスーパーサイエンスハイスクールですね。

○委員 加古川東ですね。ここは公立高校。

○校長 県立です。

○委員 ありがとうございます。

○校長 商業高校、長田商業は生徒全員が株主なのですよ。

○委員 学校の。

○校長 はい。そのような学校で、アントレプレナーに関わる場所、そういった学校に行ったり、あとは京都の嵯峨野とかにも行っていますね。ここも探究で結構有名なところなのですが、私も嵯峨野に行ったのは十数年も前に、あと堀川高校にも行ってきましてけれども、非常に探究の進んでいる学校ですね。

○委員 いろいろな地方のところに泊まりがけで見にいった、調べてくると。

○校長 日帰りもありますけれども。富山も日帰りで行ってまいりました。

○委員 富山は北陸新幹線が使えて。

○校長 そうですね。

○委員 確かに日帰りで行けますね。

ありがとうございます。都内の進学校なのかどうなのかなと思って、ちょっと興味がございましたので、分かりました。

○校長 「とやま」というと、都内にも戸山がありますから。スーパーサイエンスハイスクールで。

○委員 あと、豊かな心のところで課題だと考えているところで至大荘に関するコメントがあって、先ほど副校長からはコメントをいただいていますけれども、この中で、一旦実施したものの、以前の形とは全く異なるため、先生方へ伝えることが十分にはできなかったと感ずるというところの意味をもう少し教えていただきたいということと、その意味を踏まえた上で、今後のアクションプランといいますか、何をされようかとされているのか、その辺りを教えていただけますでしょうか。

○前期副校長 まず、期間に関しましては、コロナ前は4泊5日で実施していたところですが、昨年度、計画まで行って実施できなかった。今年はできたというところですが、昨年度の段階で、もし実施できたら人数は取りあえず減らす必要があるであろうということ。つまり、部屋のキャパシティの問題で、コロナ禍のときは密にならないというところでしたので、それを回避するために2回構成にしました。前半と後半でちょうど半々の人数になるようにということで、その関係で期間が2泊3日ということになったわけです。ですから、本当に実施の形上がまず大きく変わってしまったというところが全く異なってしまったというところですが、期間が短くなれば、当然その中で行われるメニューというの凝縮ないしはカットされているわけです。そこもまた異なってしまったというところになり

ます。

○委員 この先生方へ伝えることが不十分だったというのは、行事を削った分の運営の仕方とか、指導の仕方とか、そういう理解でよろしいのでしょうか。削った分の日程で行っていたものが伝えられなかった。

○前期副校長 削ったところ等が十分伝えきれなかったということで、そんなところでございます。

○委員 来年に向けてはどんな感じでお考えなのでしょうかということをお伺いしたいのですけれども。

○前期副校長 今後はまた検討していく必要があるなというところではあります。

○会長 皆さん、ほかには。関連したことでもよろしいですが、ございますでしょうか。どうぞ。

○委員 区立と都立の千代田区もしくは東京都の教育方針というのは、結構違うのですか。いわゆるそれに沿って運営されていると思うのですけれども、そこら辺、ちぐはぐみたいなことはないのだろうとは思いますが、御苦労があるのかないのか。

○校長 ここは千代田区立なので、千代田区の教育方針にのっとって行っていくということになっておりますので、その中での教育方針ということであります。スクールミッションについても千代田教育委員会から下りてきているというところがありますので、それに沿って経営していく。

都立の場合、都立は都立の事業としてありますけれども、いろいろと関連してうちの生徒が参加できるようにしてもらっているところもありますので、そういった意味ではうまく、千代田区教育委員会さんの御配慮もいろいろとあって、都のほうの事業にも参加できるよというようなことでやってもらっているというところですよ。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかによろしいでしょうか。どうぞ。

○副会長 先ほどほかの委員の方からも出ましたが、知の創造部の先進校というところに目が行っておりまして、御存じだと思いますが、実は数年前まで、正確な名前は忘れてしまいましたが、教員が研究費をほぼ35万から50万ぐらい申請すると、この評議会で5～6名審査して、その大半がやはり先進校を見にいきたいと言ったり、いろいろな機材を買いたいとか、非常に若い先生たちから積極的に申請があったことを覚えております。それがどうしてその予算がなくなったか、私はその理由がよく分からないのですが、そこで申請をされた先生方のプレゼンを聴いていると、どこの学校に行ってみたいとか、私たちもそれがよく勉強にもなりまして、先ほどの都と区の違いで、この中にも区の附属校のような、プラスワンのような中等教育学校の独自性を問題提起された方がいらっしゃったかと思いますが、その研究費の制度などは独自性の一つになるのかなと思っております。大学で言えば、我々、研究費の申請は必ず文科省などに申請して、それが教員のモチベーションになったりするのですが、それによく似た制度が数年前まであったので、それを思

い出しました。ぜひ生成AIとかで九段が指定されているのであれば、どんどん若い先生方に行っていただくと、近い将来、都の教員の中でも九段に来たり、モチベーションにもなるかと思いますが、ちょっと御検討して頂ければよろしいかなと思いました。

それから、別件ですが、この中で、SMP部の中で、大変正直にというか、御指摘されているので、区分Bの応募者が減っているというところがやはり私は気になりました。特に、世俗的で恐縮ですが、やはり大学進学率というのは次の年の応募者の数などに影響があると思いますので、その大半に貢献している区分Bの学生が減っているというのは、やや心配なことかなと思っておりますが、これに関してはどういうふうにお考えか、これは質問というか、そんなに深い質問ではないのですけれども。

○校長 区分Aも上がっていると言えは上がってきていますし、区分Bについても多少なりの上下はあるのですけれども、そんなに減ったとかという感覚はないのはないです。非常に外部から来られる方の数も多いですし、学校説明会でも非常に多いのですけれども、ただ、都立高校に比べると募集数が少ないので、そこはすごく敬遠しがちになっていると思います。特に今の子たちはとにかく安定志向に入ってしまったので、なるべく枠の多いところに。今までだと男女別、区分別に分かれているので、それぞれの区分は40人しかいないのですよね。都立の場合には160人の募集があるので、そこはやはり避けたいところと、都立高校は共通問題なのですけれども、九段は独自問題をやっているので、そういったところでいろいろと考えるところもあるかと思うのですが、でも、極端にが減っているわけではないですし、合格している生徒層からいうと、倍率が減ったからといって下がっているわけではないので、そこは安定してきている面もあるのかなと。逆にいうと、都立高校も実は倍率が下がっているのです。安定してきたというのですかね。前は一番高いところで14倍ぐらいあったのですけれども、それがずっと落ち着いてきているというのはあるのだろうなと思うのですが、そんなところですよ。

今回も塾の関係者には結構来てもらっているのですけれども、かなり多く、例年関係なく来ている。ただ、今年度の適性検査から男女枠がなくなってしまったので、そこがどう動くかですね。その辺がどう動くか、我々にも分かりません。都立も7年度からそうなりますので、いろいろな動きが出ると思います。

○副会長 区分Bというのは全都枠のほうですね。

○校長 そうです。千代田区外。

○副会長 それぞれの中で男女別がなくなったのですか。男女枠。

○校長 そうです。A区分もB区分も男女枠というのがなくなっています。

○副会長 A区分、B区分は残って、Aが80、Bが80ということですね。

○校長 そうです。

あと、先ほどの先進校訪問なのですからけれども、これは都立よりかなり恵まれていて、すごく若い先生たちもいろいろなところにたくさん行けているのは、千代田区教育委員会とか室長の力で取ってきてもらっているのです、そこは恵まれていると思います。都立だ

と在籍している間に1回行けるか行けないかしかないと思うのですけれども、毎年でも行ったり、1年に複数回でも、こういったところを見たいという意識の高い先生たちが多いので、結構行かせてもらっているというのがあります。だから、九段にいる間にもどんどん勉強してこいと今言っているのですけれども、そんな状態です。

○副会長 やはり教員のモチベーションを上げるというのは非常に重要なことかなと現場にいて思いますので、どういう制度か分かりませんが、ぜひモチベーションを上げるべく、よろしくお願いします。

○校長 その辺りは副校長がさばいていますから、こんなところに行きたいのですけれどもと教員が校長室にどっと来て、校長先生、こんなのがあります、ここに勉強しにいきたいと言いにきますので、そういうのはうちの先生たちはすごくあると思います。

○副会長 あまり参考にならないと思いますが、私立ですけれども、渋幕が出来上がったときに、先生を採用する際に、研修でいろいろなところに行かせたりしておりました。一度、ある所で渋幕はどうですかと尋ねたことがありまして、その際、良い学校だと若手の教員が答えたことを思い出しました。そうこうしているうちに、あんなに東大合格者が急増しました。ですから、やはり教員を大事にするというか、うまく言えませんが、モチベーション上げてあげることが一つの方法かなと思いました。

○会長 ほかに御意見。どうぞ。

○委員 区民としては、そうやってお金をかけていろいろ勉強していただいた先生方は、どのぐらいの年数いらしていただけるのかなと思ったのですけれども。

○校長 ここに残っている期間ですか。

○委員 そうです。

○校長 基本、ほかの都立高校と一緒になのです。6年間というのがあるのですけれども、ただ、都立からこちらへ来てもらうのに退職して来られていますので、一応協定があるので、協定の中では最大10年間ぐらいという形にはなっています。

○委員 ほかの学校に行って活躍してくださるのもいいのですけれども、区民としてはぜひこちらにその力を使っていただければというのがあります。

○校長 今、新しいプログラムをやっているので、スーパーサイエンスハイスクールとか、あるいはICT関係、アントレプレナーシップなどですごく先進的な学校に行って、すぐに来年からというか、今からどんどん授業の中に取り入れたり、こういうのができるねということで、来年度早速やりましょうとかという形では先生たちもやっていますので、何年かしたらうまくプログラムになればいいなというよりは、即戦力的な先進校訪問をしているかなとは思っています。

○委員 まず九段に一旦いろいろ入れていただいてという考え方でいいのですね。

○校長 そうですね。千代田区のお金を使っているので、こればかりは千代田区に戻してもらわないと。

○委員 あともう一つ、いつも拝見していても、ふんだんにと言ってしまうといいのかど

うか分からないのですけれども、区はふんだんにお金を使っている気がするのですが、選抜の研修とかもいっぱいいろいろ生徒さんたちが派遣されていると思うのですけれども、家庭の負担というのはどのような感じに。全部区ということはない。

○校長 基本は受益者負担です。行く生徒が負担して、積立額で。

○委員 全員ではなくて選抜です。全員はうちの子は行っていましたので知っているのですけれども、派遣される選抜で行く子たち。

○校長 選抜で行く子たちというのは、千代田区としてですか。

○委員 例えばさっきの。

○校長 UCLA。

○委員 そうです。

○校長 UCLAは、選抜といってもうちの学校の事業なので、そこで希望した生徒が行くということで、UCLAは補助は出ているのですか。

○校長 今年度については1人5万円です。

○委員 そのぐらいで行けてしまうということなのですか。

○校長 残りは受益者負担です。

○委員 5万円が千代田区からなのですね。逆です。ごめんなさい。

○校長 はい。1人当たり。

○委員 そうということですね。制度としてこういうのがあると。

○校長 そうですね。港区長がシンガポールに行くということをプレス発表しましたが、港区が一部補助しているようです。

○委員 業者を使って行くのに比べるとよほど安心ですし、家庭の負担があるにしてもですよね。やはりそういうのをもうちょっと小学校に宣伝して、ちょっと宣伝が下手かなと前から思っていて、はっきり言って、隣に住んでいても九段中等に行かなくて私立に行ってしまうのですよ。でも、よく考えると、私立の説明会に行くと、わあすごい、わあすごいと思うことがいっぱい出てくる。でも、お姉ちゃんも九段に行っていて、よく考えたら全部九段はやっていたとおっしゃるのですよね。なので、もうちょっと区民に対してうまく宣伝していただけるといいのではないかなと。

○校長 私の説明の仕方を。分かりました。

でも、海外の大学と提携しているとか、そういうことを言っているのが、非常にその辺りの反応はありますね。そんなのをやっているのですかとか、大学の名前を聞くだけすごいなというのは出てくるのですけれども、もっともっとコマーシャルをしていけばと思います。

○会長 ありがとうございます。

では続いて、お願いいたします。

○委員 私、全般を通して、特に本校の産業医をさせていただいているという立場で気になるところをお話ししたいと思います。

他の委員がおっしゃるとおり、先生方のモチベーションを大切にするというところはすごく大事だと思います。私も先生方のふだんのお話をお聞きして面接させていただくと、やはりこれだけたくさんの新しいことに取り組んでいらっしゃる、とても忙しいわけです。どこの学校の常ではあるのですが、長時間勤務の方が非常に多い。下手すると100時間超えという方もいらっしゃいます。これは一般企業では考えられない法外なワークですね。そこをやはり取捨選択というか、例えば仕事はどんどん物事が積み重なっていくと思うので、今やらなくてもいいものを止めるとか、ほかにやっていただけたところに回すとか、新しいことをやる上にはそういったことを考えて、業務の割り振りとか、縮小を考えていただくといいのかなと思っています。

そういうふうにして先生方のモチベーションが上がることで初めていい先生の方が長く勤め、いろいろなところからも来ていただけたと思いますし、結果として、生徒さんたちへの利益というのもそこで増えてくると思うのです。魅力のある学校になって、周囲にも知れわたっていくことで、学校の発展につながるのではないかなと思っています。

あと、先ほどちょっと至大荘行事の話もありましたけれども、多分コロナ禍で伝えきれないことが多々あり、4年間のブランクというのがかなり大きかったのかなというのは聞いていて思いました。ですから、伝統を続けていくという意味でも、いい先生方に長くいていただくというのがこれからすごく大事なかなと思っています。

あと、部活動を外部委託するというのも非常に効率的でいいと思うのですが、中には部活動が息抜きであったり、あるいは生きがいであったりという先生方もいらっしゃるのです。ですから、どうも一律に部活動を外出しすればいいかということでもなさそうだというのも、産業医の立場で見ているところでもあります。その辺もうまく采配していただくといいかなと思っています。

私からは以上です。

○会長 ありがとうございます。

何かありますでしょうか。

○校長 働き方改革というのは非常に、働かせ方改革かなというところもあるのですが、先生方はすごく真面目なのです。ここは中高一貫校なので、中学校から高校まで6年間を教えるという、それだけ教科内容が多様なので、先生方は教材研究が大変なのです。御家庭への連絡というのは、共働きが当然多いので、夜にしか連絡が取れないとかとなってくると、非常に難しい。先ほどの部活動もそうなのですが、部活動をする、顧問をやっていると、それだけで単純に計算して月の残業が50から80行ってしまうのですよね。なので、その辺りは何とかならないのか。

こういうプログラムも新しいことをやっているようで、実は今までのものを整理するためにこういうのをやっているのです。今までのいいものを残しつつ、全部の先生たちで取り組む。ある一部の先生たちだけが取り組むのではなくて、そのプログラムで要らないものは捨てていくというのも必要だろうと。最初に言ったように、本当に先生方は真面目な

ので、捨てなさいと言っているのに捨てられないのですよね。いつか必要かもしれない、これはどこかで役立つかもしれないと言って持ち続ける。なので、そこをどう整理していくかということも大事なのだらうなと思いますけれども、ただ、この働き方改革については、言っているのですけれども、帰らないのです。帰れと言っているのに帰らない、来るなど言っているのに来るのですよね。どうしたものかと思いながら、でも、それだけ仕事があるというのも事実なので、ビルド・アンド・ビルドではなくて、スクラップ部分をどうしていくかというのを管理職として考えていかなければならない。

ただ、ここの学校に長くいたいということで非常にとどまってくれている先生が多くいまして、そのために昇任試験を受けたいというようなことで、昇任試験、今年度は校長選考に受かったのですけれども、それから、管理職の候補者が今1名いますけれども、任用審査に受かり、それから、1人、B管と言って、いわゆる即戦力ですね。2年間で副校長になって1人受かり、主幹教諭に2人受かりということで、結構頑張っているかなと思います。頑張って昇任していただければまた残れるので、規定よりも長く残れるという先生たちが増えていますので、そういった意味では、非常に九段に愛着を持って頑張っている先生方は多いかなと思います。

○会長 なかなかいい話ですね。

では、ほかに。お願いいたします。

○委員 先ほどの話と重なってしましますが、学校への質問と皆様への情報共有なのですが、実は今年度、9月21日に千代田区教育委員会から保護者宛てに通知が届いております。どんな通知かということ、学校における働き方改革への御理解、御協力という通知が来ています。これは本当に素晴らしいことかなと思って、保護者の中でPTAのP.A.の中でも話題になりました。やはり先生方はたくさんの方を、校長先生は先ほど整理するためにやっているとおっしゃっていましたが、そうは言っても、本当に素晴らしい、子供たちのために御尽力いただいているといつも思っているのですけれども、そのために、我々保護者として少しでも先生方の負荷を減らしたいと。そんな思いでP.A.の活動をやっておるのですが、この通知の後で多少保護者からの負荷が減ったのかどうかというのは個人的に気になるところ。

それから、もう一つは、前回のこの場でも申し上げたかもしれませんが、コロナ明けでいろいろな行事の再開に当たって、今後はそれが通常になっていくと仮定すると、例えばP.A.としてお力添えできることはないかなというのを今探っております。例えば先生方もP.A.にお願いするより御自身でやったほうが早いというのは重々承知はしているのですけれども、今後が続くと考えると、最初は大変かもしれませんが、仕組みだけ一緒につくるお手伝いをさせていただいて、例えば体育祭、九段祭の保護者の受付は全部保護者がやるとか、そういったことで先生方の労力が減らせるのだったら、全面的に協力したいと思っておりますので、ぜひ御検討いただければと思っております。

肌感覚で保護者の先生方に対する質問とかが減ったかどうか気になるなと思っている

のと、校長先生が以前からおっしゃっている、保護者と学校の双方向の対話形式での仕組みをつくっていらっしゃる。スクールの単方向ではなくてというお話だったので、そういったものが早期に実現できれば、先ほどの夜ではないと連絡がつかないの問題も解決できるのかななんて思っておりますので、引き続きお願いできればなと思っております。

以上です。

○委員 あのお知らせの後、肌感覚はどうですか。

○校長 こちらが説明するときの御理解の一端にはなったのかなと思っております。実際、ケース・バイ・ケースのこともありますけれども、今後はさらに皆さんに御協力いただいてという方向にしていきたいと思っております。

○委員 ぜひよろしくお願いします。ありがとうございます。

○校長 本当に何か疑問点があればすぐに連絡してくださったり、あと、積極的に担任の先生とかが保護者に連絡をして情報を提供したり、そういうことをやっておりますので、たまにクレームのようなこともあるのですが、きちんと説明すれば理解していただける範囲かなと思っております。今後ともよろしくお願いします。

○委員 よろしくをお願いします。

○校長 それと、生成AIのパイロット校ということで、校務支援が本当にこれからうまくいくと、もう少し事務分担量が減ってくれるといいなというところなのですが、ただ、いろいろなものがデジタルになっていて、まだ運用の仕組みでいろいろと改善しなくてはいけない点があって、紙のときよりも大変になっていると、副校長2人は感じている部分があるのですが、そこはうまく今後教育委員会とも話をしながら整理していくと、もっともっとよくなってくるのかなとは思っているのですが、多分教育委員会さんもデジタルになることで大変なのではないかなと思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかによろしいでしょうか。

どうぞ。

○委員 これだけ報告いただきながら、先生方が放課後の空き時間を利用して日程調整をしてお互いに共同で指導していくのですが、もう少し先生方の持ち時数を減らし、千代田区の教員を増やしてほしいという要望です。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

では、何か。

○委員 大変難しい問題かと思えます。

○委員 すぐは回答できないと思えます。

○課長 課題は重々承知しているところです。教育委員会としても、なるべく一人ひとりの教員の負担が減るよというの、九段中等だけではなくて千代田区内の小中学校も含めて、その方向で検討はしているところです。ただ、現実的なお話をさせていただくと、

非常に困難。これは千代田区だけではなくて、恐らく東京都全体の問題でもあると思っております。

○委員 結局、国の政策も、生徒減に向けた1クラスの人数を検討しはじめています。東京だけではなくて地方等にしても、学校数が減っていったって、学校がなくなるなんていうところもあるのですけれども、むしろそれは逆であって、そういうところにより減るのではなくて、先生方を残し、少ない子供たちを指導していくということによって、先日、OECDの結果が出ましたけれども、あれ以上にむしろ1クラス当たりの人数だとか、それから、先生方の持ち時数を減らしていくことによって、先生方の子供への指導というのがより高まって、OECDではトップクラスの日本の教育が更に評価されるでしょう。千代田区の教育の中から進めていくということが大事なかと。小学校も今、1クラスの人数が35人、30人と減らしている段階です。

○子ども総務課長 ありがとうございます。

千代田区の教育委員会といたしましても、学校との連携を図りながら必要な部分を補完してまいりたいと思います。御意見ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

○校長 持ち時数についてはそんなに変わらないのですけれども、実は九段中等は人数が都立よりも10人以上多いのですよね。その分どこに行っているかというところ、前期課程にTTで入っていたりする。都立は前期課程がTTで全部入るというのはないので、そこが充実しているので、区民というか生徒に還元されているというところはあるのかなと。そういった意味では、人件費については千代田区さんはこちらに結構配分してもらっているというのはありますけれども、これで持ち時数が少なくなるともったいいですね。

○会長 御活発な論議をありがとうございます。

では、ほかに特になければ。

○委員 同窓会として発言させていただきたいのですけれども、先ほどの大学院生とか比較的若い年次の方をお呼びしてチューターみたいな形でやられている制度もあるかと思うのですけれども、一方で40代、50代、社会の中堅にいる卒業生も同窓会としては抱えていて、今回のサイエンスハイスクールで実際にどんな活躍をしている人が九段の卒業生にいますかというところでの御協力というのができないかなということも考えています。卒業したての子たちは、卒業5～6年ぐらいまでであれば、先生方も6年間一緒にやっているので、若い卒業生のネットワークは学校側のほうがむしろはるかに強いと思います。実際に実業でやっている卒業生たちは、どちらかというと同窓会のほうが多分ネットワーク的には強いのではないかなと。そういったところで、もし我々が御協力できる、あるいは人材を登用できるようなところがあれば、一緒に何かできることがあるかと思うので、そういうところが一つでございます。

それと、これは可能であればなのですけれども、いろいろな外部の方を呼んでいる委員会の場にも、同窓生を1人ぐらい交えるというのも御検討いただければ、そういった現場

の声と、それから、先生方とのコミュニケーション。それから、実際に大学教授も含めて、実務家でもそういうところにフィットする人がいれば、もし御希望であればですけども、そういうところをサーチして御提案することも可能かなと思っています。STEAM教育とかというのもこういう人が、講師でも構わないですし、委員でも構わないですし、どちらかというと、憧れではなくて、身近な先輩がこんなことをやっている。こういうふうな人たちがいれば自分たちだってできるのではないかみたいな、そういった意味での先輩の活用の仕方もあるかなということで、そういうところでリンケージを取らせていただけるといいかなと思っています。

あと、非常に細かい話で恐縮なのですが、6ページのところは私たちの同窓会のメンバーの中でも引かなかった人がいらっしやいまして、これはついでのお話なので、言葉尻をとらえるような話で誠に恐縮なのですが、一番上に書いてある主体性のところで「主体的に取り組ませる」という言葉に皆さん引かなかったところがありまして、これだと主体性なのか、やらせることなのかという言葉遣いのところではあるのですが、古い、私も70年代で学生るとき、ほとんどほったらかしというか、自主性だらけの学校だった時代を経験しているものですから、これまでいろいろな教育制度が準備されていてすごいと思う反面、いろいろと主体性はどうやって育てているのだろうかというのがみんな気になっているところでもあります。こういうところで言葉尻をとらえたくはないのですが、やはり自分の道は自分で切り拓いていくという精神を育ていただけると、同窓生としてはとても、何となくフィット感が出てくる。取り組ませるという学校側の押しつけ感みたいなものがあると、一応中1から高校3年生というか6年生までいらっしやるので、教育の過程では、こういうことを教えるという意味では取り組ませるという言葉もあるのかもしれません。多分後期課程になってくるとほとんどが主体的にやっていかないと切り拓けないものが多いのかなということで、本当に言葉尻で恐縮なのですが、そういうことをお願いして、質問といいますか、同窓会としての意見を述べさせていただきました。

○会長 よろしいですか。

○指導主事 もしよければ、私のほうから。

「主体的に取り組ませる」という言い方なのですが、私、義務教育も担当しているので、指導という言い方をよく使いますが、基本的に子供たちが主体的に学ぶように仕組みづくりをするのが先生でありまして、この主体的に取り組む仕組みづくりというのは、通常どおり、今までのチョーク・アンド・トークの授業とは比較にならないぐらい大変なのです。一番ポイントになってくるのは、子供たちに合っている課題を先生がちゃんと提供してあげること。あと、子供たち一人一人がちゃんと進んでいるかどうかの進捗を確認してあげること。こういうサポートなくしては主体性というのは育たないと考えています。なので、主体性を育てるための先生たちの取組としては、取り組ませるという表現も間違いではないかなと思っています。もちろん主体的に取り組むというのも大事な

のですけれども、それだけだと、自由奔放にただ単に目的なくやってしまうというふうにとらわれてしまうのも心配な面でもありますので、あくまでも先生たちがコントロールしている中で子供たちの主体性を育てるという意味合いが込められているかなと私は捉えております。

○委員 コントロールされていない世代からすると、大分ギャップがあるところですよ。

○会長 では、よろしいでしょうか。言葉尻の問題とありましたけれども、今の御説明で御理解をいただければと思います。

皆さん、よろしいでしょうか。

よろしければ、私のほうで2点確認をさせていただきたいところがありまして、今日御報告いただいた内容の中で不登校の生徒あるいは個別配慮が必要な制度というお話があり、それが若干増えているかの記述がありましたが、現実的にどの程度の数値なのでございましょうか。また、過去と比べて増えている、減っている、あるいはどういう状況なのかというところなのですが。

○前期副校長 各クラス1人程度ぐらいでしょうか。

○会長 十分に個別に配慮して対応が行われているということではよろしいのですよね。

○前期副校長 はい。学校だけでなく、例えば区の白鳥教室にいろいろ対応をお願いしたり、そういった外部のほうとも連携をしながらやっております。

○会長 ありがとうございます。

あと、もう一点としましては、最初のほうに高田委員からもお話がありました至大荘行事、まず復活できたことは大変よかったのではないかと私は思っています。ただ、そのときの2期に分けました主な要因としまして、コロナの影響もあって密を防止していくというお話がありましたけれども、至大荘の施設を管理、管轄して維持している法人九段のほうに対して、施設の改善ですとか、あるいは部屋を増やすというのはなかなか難しいでしょうけれども、空気の流れをよくするとか、そういうような何か具体的な要望というのは学校として、あるいは校長、副校長が理事になっていらっしゃると思いますが、そういう中での要求というのはお考えになっているのでしょうか。

○校長 言い出すと切りがないので、至大荘、それから、尽性園もそうなのですけれども、活用しやすいこういったところがあるといいかなということをお願いしているという段階ですかね。ただ、宿泊行事一つを考えても、ただ単に箱があってそこに泊まれればいいというものではなくて、多様性の問題でいろいろなことがある。ですので、今、修学旅行もああいふ集団で寝るということがほぼ考えられない状況なのです。今回、私もほかの先生と雑魚寝をしたのですけれども、それ自身が、逆に言うと、学校経営上、パワハラではないけれども、そういうふうに捉えている先生もいるのですよね。校長と同部屋で泊まること自体がどうなのと。私は若い先生たちがいろいろ話をしているのが聞けるので、それはそれでいいのですけれども、先生たちはやはりゆっくりできない。校長がその部屋にいたら一緒にゆっくりできないとか、そういったこともあるので、いろいろな面を考えていか

ないと今後難しいかなというのが今のところ。そういったことについても考えて、どうしていくのがいいのか。

生徒もそうなのですよ。今回、正直、男女で分けて行ったのですが、多様性の観点から、難しいのですよね。これからもっともっといろいろな面で厳しくなっていくのかなとは思いますが、個室を作ってくれというわけにもいかないし、こればかりは難しいところですね。集団的でいいところもありますし、いろいろな個別対応ができる形なのかなとも思いつつ、こればかりは難しいところです。

○会長 世の中の流れとともに、いろいろ多様性を考えた上で、伝統行事をどうやって継承していくのかという非常に苦しいところだと思いますが、ぜひ皆様の前向きな御検討をよろしくお願いいたします。お金で解決できる場所とそうではない場所もあると思うのですけれども。

○校長 何が大事かです。何をつないでいくのかということ。形だけでは多分ないと思うので、そのところかなと思うのですけれどもね。

○会長 ありがとうございます。

活発な御意見交換をやらせていただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、次に進みます。大分時間も押してきましたが、令和5年度の学校経営診断アンケートの依頼について御説明をお願いいたします。

○後期副校長 貴重な御意見をありがとうございます。

それでは、令和5年度千代田区立九段中等教育学校学校経営評議会、学校経営診断評価アンケートという冊子を御覧ください。

本年度の学校経営方針、計画に基づき、本校が取り組んでいる教育活動の実施状況を踏まえ、評価及び指導、助言をお願いします。

アンケートに関しましては、該当する評価段階に丸をつけてください。十分に取組んでいるところはA、どちらかというと取組んでいるはB、どちらかというと不十分はC、不十分はDになります。

また、今年度に関しましては、この冊子に答えていただく。加えて、Forms ~~フオーム~~ で答えるというのも可能になっております。パソコンまたはスマートフォンで、スマートフォンの場合にはQRコードもつけておりますので、そちらから入っていただいてアンケートにお答えいただくことも可能となっております。

12月20日をめどに提出いただけたらと思っております。御協力をお願いいたします。

私からは以上です。

○会長 評価アンケートに関しては、御質問あるいは御意見等はよろしいでしょうか。

では、皆様やっていただけるということで。

返信用封筒で御回答する予定の方はいらっしゃいますでしょうか。皆様、メールか、そういう今言われた中身で大丈夫ですか。

分かりました。ありがとうございます。

特になければ、最後になります、5のその他に進みたいと思います。

学校または事務局のほうから何かありますでしょうか。

○経営企画室長 次回、第3回目の学校経営評議会の日程についてですが、事務局としては年度末、3月頃に開催したいと考えております。改めて会長、副会長と調整させていただいて決めさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○会長 分かりました。

それでは、今の御意見も参考にしながら決めさせていただきます。

特に皆様のほうから追加で御意見等がなければ、第2回「学校経営評議会」を閉会といたしますが、よろしいでしょうか。

どうぞ。

○経営企画室長 最後に1つ連絡を。

区議会でも話題になっているのですが、後期課程の給食というかお昼について、この間、P.A.さんの御協力をいただいて試食会もしたのですが、550円で当日の9時半までに申し込めば持ってきてくれる。あるいは9時半までにキャンセルすれば手数料はかからない。各家庭、保護者の方がインターネットで申し込めば持ってきてくれるということで、30円の手数料はかかるのですが、それも550円の中でやってくれるというような業者さんが見つかって、1月から早速それを取り入れたいなということで、P.A.の方もお弁当が作れないときでもそういったことがあるとありがたい、助かるということで取り組むことができるようになりましたので、御報告をしたいと思います。

○会長 ありがとうございます。

では、ほかによろしいようでしたら、これにて閉会といたします。

今日はありがとうございました。